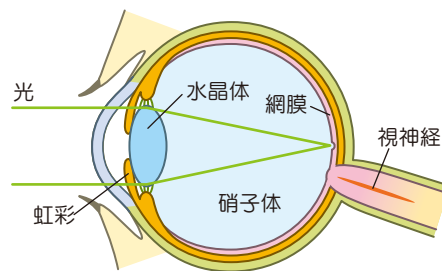


特集 ご存じですか？網膜剥離

網膜は眼球の内側にある薄い膜で、物を見るための重要な部分です。網膜が何らかの原因で眼球の壁から剥がれることを、網膜剥離といいます。早期に治療すれば、深刻な視力障害を予防できる可能性も高まります。網膜剥離について学び、早期発見・早期治療に努めましょう。

物が見える仕組み

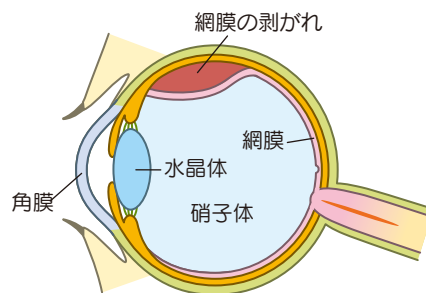
目はカメラに例えると、水晶体はレンズ、網膜はフィルムに当たります。外から入ってきた光が角膜・水晶体・硝子体を通して、網膜に像を結びます。さらにその像が視神経を介して脳に伝わり、物が見えます。



網膜剥離になるまで

最も多く見られる裂孔原生網膜剥離は、網膜に孔(網膜裂孔・円孔)が開き、目の中にある水がその孔を通して網膜の下に入り込むことで発生します。

他にも、糖尿病網膜症やぶどう膜炎などをきっかけに網膜が剥離することもあります。



主な症状

- 飛蚊症・・・小さなゴミのようなものが見える
- 光視症・・・視界の中に光が一瞬走る
- 視野欠損・・・視野の一部が欠けて見える

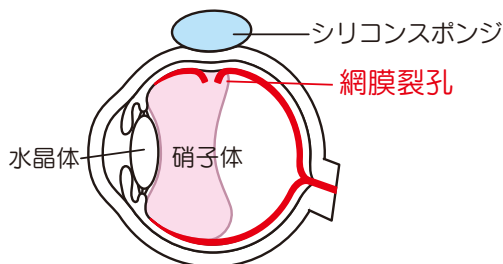
治療

網膜裂孔・円孔だけで 網膜が剥がれていない場合

レーザーによる網膜光凝固術(孔の周囲にレーザーを当てる)や網膜冷凍凝固術(孔の周囲を凍らせる)で網膜剥離への進行が抑えられることもあります。

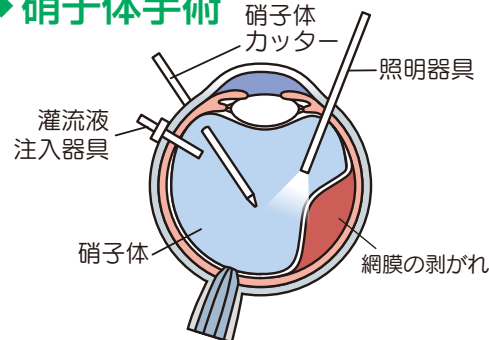
網膜が 剥離している場合

◆強膜内陥術



孔の位置にスポンジなどを当てて孔を塞ぎます。そして、強膜に穴を開けて網膜の下に溜まった水を抜き、網膜を元の位置にくっつけます。

◆硝子体手術



網膜を引っ張っている硝子体を切除し、眼内に気体を入れ網膜を元の位置に戻します。そして、裂孔の周囲にレーザーを当てて孔を塞ぎます。



剥がれた網膜は、時間が経つと失明する恐れもあります。早期に発見できれば、進行を抑えることも可能です。いつもと見え方が違うと感じたら、早めに眼科を受診されることをお勧めします。

出田眼科病院 副院長 川崎 勉